

手をつなごう2007

平成19年10月22日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 18

一人一人の子どもに合った効果的な支援をしていくためには、保護者との連携が不可欠ですが、知的な障害がない場合や軽い場合には、保護者も現状を受け入れがたいことが多いようです。ニーズ調査でも、困っておられることとして、特に保育園・幼稚園・小学校の先生の場合、「保護者との連携」が多くあがっていました。

そこで、保護者に対してどのような働きかけが大切なのか、一般論ではありますが、いくつか挙げてみます。



保護者との連携: その1

「自閉症のおともだち」「アスペルガーのおともだち」などのシリーズや「光とともに」「裸の天使」などの漫画は子ども向けですが、大人にも分かりやすく、親子で一緒に読む機会が持てるように紹介してもよいですね。



普段から障害全般に対する理解を高めるような働きかけをしておきましょう

特別支援教室やことばの教室にまだまだ偏見がある方もいるようです。そこでどのような指導が行われているのか、子どもたちがどんな成長をしているのかといったことを普段からみんなに伝えていけるといいですね。

通常学級在籍の子どもたちも気軽に使えるリソースルームなどを活用することで見方が変わってくるかもしれません。

「自閉っ子、こういう風にできてます！」
(ニキ・リンコ×藤家寛子)

「ずっと「普通」になりたかった。」
(グニラ・ガーランド)

などの本人著作もたくさん出版されています。手軽に読めて、具体的で分かりやすく、どのような苦しさがあるのか、どのような支援を求めているのか、より実感することができます。こういった本を読んで、「もしかしたらうちの子も…」と気付いた方もいらっしゃるようです。



障害の有無だけにとらわれず、できるだけ一人一人に合った学習を保障する機会を普段からつくるのが大切です。「この子はできないからみんなと違う教材で」という「特別扱い」を急にする、本人も保護者も周囲も素直に受け取れません。「あと10分あるから、3種類の中から自分の力に合ったプリントを選んでみましょう!」といった機会をたくさんつくることによって、みんな違うことが当たり前、という学級の雰囲気をつくりたいものです。一人一人に合った学習を保障することこそが「特別支援教育」ではないでしょうか。

(文責: 富谷)

次号に続きます!